

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月26日

【評価実施概要】

事業所番号	3890100120		
法人名	社会福祉法人 ワーカーズコレクティブとも		
事業所名	溝辺ともの家		
所在地	松山市溝辺町甲119-1番地 (電話) 089-977-8522		
管理者	田嶋 優子		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市千舟町六丁目1-3チフネビル501		
訪問調査日	平成20年5月12日	評価確定日	平成20年7月26日

【情報提供票より】 (平成20年5月1日事業所記入)

(1)組織概要			
開設年月日	平12年7月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤	8人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.4人
(2)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	36,000~38,000円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる
敷金	有()円 (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円) / 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200円	昼食 450円
	夕食	450円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100円		
(3)利用者の概要 (平成20年5月1日現在)			
利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	1名	要介護2	0名
要介護3	2名	要介護4	1名
要介護5	5名	要支援2	0名
年齢	平均 85.6歳	最低 75歳	最高 101歳
(4)他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定	あり・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護	
指定	あり・なし	指定認知症対応型通所介護	
届出	あり・なし	短期利用共同生活介護	
加算	あり・なし	医療連携体制加算	

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>3ヶ月毎に介護計画を見直し、状態の急激な変化時には、ショートプランを作成されている。計画をご家族と共有し、リハビリの協力等も得ながら取り組まれている。 起床や食事の時間を個々の体調やペースに合わせておられる。犬がお好きな方に対して職員は、テラスで犬と過ごす時間を大切に支援されていた。 台所仕事をされる方やタオルをたたむ方等、利用者個々に役割があり、ご本人のできることを無理なく行えるよう支援されている。又、介護度重度の方は、その場に一緒に居て見守ってくださっている。</p>

【質向上への取組状況】

<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>・前回の評価結果を受けて、改善計画書を作成し、共用空間が利用者にとってより心地よく過ごせるような場所になるよう、皆で話し合い取り組まれた。</p>
<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>・自己評価の項目を全職員で分けて取り組み、全体で話し合い作成された。</p>
<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>・3ヶ月に1度の運営推進会議では、事業所で行う行事の報告や今後の予定等について話し合われている。又、会議時、出席者から近所のお年寄りの方についての相談があり、包括支援センターの方や市職員からアドバイスをいただき、訪問していただくこととなった。</p>
<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>・ご家族の来訪時や、毎月のお便り等で利用者の暮らしぶりを伝えておられる。又、事業所のブログ「介護ひまなし日記」は、ご家族も楽しみにされている。</p>
<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>・散歩や買い物に出かけ、地域の方達とあいさつや言葉を交わし、地域の行事へ参加されたり、小・中学生とも交流されている。</p>

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

溝辺ともの家

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

田嶋 優子

評価完了日

平成 20 年 4 月 15 日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価)		
			利用者サービスの基本方針に「家族、友人、地域との交流を大切にし、社会性の維持・回復に努める」と掲げている。		
			(外部評価)		
			「家族・友人・地域との交流を大切にし、社会性の維持・回復に努める」の理念に副って、利用者個々が地域とつながり暮らし続けられるよう支援されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価)		
			運営理念やサービスの基本方針を掲示し、管理者、職員共に共有し、日々介護を行っている。また、新人職員や研修生が介護にあたる時も、理念、サービスの基本方針を説明している。 介護現場では、スーパーバイズを受け、日々の振り返りをする機会を設けている。		スーパーバイザーが数日間泊まり込み、共に過ごし、指導を頂いている。
			(外部評価)		
			新人職員には、始めに事業所の理念を説明され、利用者への対応について指導されている。又、職員は、研修の機会等に、理念に基づきケアが実践できているかということを振り返っておられる。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価)		
			広報誌を家族や地域の方に配布・送付し理念や活動を報告することで理解して頂けるよう務めている。 デパートで暮らし写真展を家族の方々と協力して開催した。		「グループホームの暮らし写真展」を日曜バザーの一緒に開催しているロビー展で展示した。今後も地域の公共施設、福祉系の専門学校等で、啓発活動を続けていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 開設から8年近くの月日が経ち、地域の方々に地域の方々にホームの事を認識していただいている。散歩や買い物、理美容店の利用を通して日常的な交流ができている。 職員は地域の方々に自ら挨拶する事をを心掛けている。		
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の一員として行事・イベントを通じ、地元の方と交流することに務めている。 ごみ置き場の清掃当番、公園の清掃、地域行事に入居者の方と一緒に参加している。 (外部評価) 散歩や買い物に出かけ、地域の方達とあいさつや言葉を交わし、地域の行事へ参加されたり、小・中学生とも交流されている。		
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域交流や高齢者福祉の啓発活動を兼ね、職員が公民館などに出向いて、健康講話などを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を行い外部評価を受けることによって、日々の実践の振り返りになるととらえている。 自己評価、外部評価をサービスの質の向上に繋げる手段として用いている。 (外部評価) 自己評価の項目を全職員で分けて取り組み、全体で話し合い作成された。前回の評価結果を受けて、改善計画書を作成し、共用空間が利用者にとってより心地よく過ごせるような場所になるよう、皆で話し合い取り組まれた。		ジェイマックスさんから届く通信は他の事業所の良いところも窺い知ることができる。会議でも取り上げ、役立てている。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議での意見を職員会等で話し合い、課題を 共有してサービスの向上に努めている。		運営推進会議で独居老人やそれに近い老人の関わりを 地域包括支援センターの方々と相談し、巡回・訪問を していきたい。 また、地域の相談所となっていきたい。
			(外部評価) 3ヶ月に1度の運営推進会議では、事業所で行う行事 の報告や今後の予定等について話し合われている。 又、会議時、出席者から近所のお年寄りの方につい ての相談があり、包括支援センターの方や市職員からア ドバイスをいただき、訪問していただくこととなっ た。		
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	(自己評価) 昨年、当法人が主になって開催した“社会福祉の原点と地域 密着サービスを考える全国シンポジウム”において市介護保 険課の方の出席があり、分科会で意見交換をした。生活保護 受給の方が居り、市の担当者に一ヶ月毎の生活の様子を送付 し、ホーム内での様子や自立支援を知っていただいている。		
			(外部評価) 法人が開催するシンポジウムには、市職員の方の参加 もあり、ともに認知症やケアについて学ばれた。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る	(自己評価) 研修会などでこれらについて知識を深めている。 支援の必要性を関係者と話し合い、いつでも活用でき るようにしている。		
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全員が虐待に対して人権侵害であるとの意識を 持って防止に努めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用相談があった時や契約を結ぶ時にも時間をかけ、ご家族とコミュニケーションを図り、理解・納得頂けるよう務めている。 また、入居者に起こりうるリスクなどについても十分に説明している。		
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の方やご家族がいつでも意見・不満・苦情を表すことのできる柔軟な姿勢をとり、意見が出た時には直ちに話し合いを持ち、運営に反映させるようにしている。		
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 各担当者が毎月“生活の様子”を書き、費用請求時に同封することで報告している。 金銭管理も20年3月までは定期的に確認していただいている。 職員の異動については、ともの家日より、家族の会の会報を通じてお知らせしている。		20年4月より個人の預かり金を廃止し、理美容店の利用、医療費の支払いがある時等は一旦事業所が立て替えをして、費用請求時に併せて請求。お支払い頂いている。 領収書も請求時に添えている。
			(外部評価) ご家族の来訪時や、毎月のお便り等で利用者の暮らしぶりを伝えておられる。又、事業所のブログ「介護ひまなし日記」は、ご家族も楽しみにされている。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会の発足により、意見・不満・苦情も述べやすくなったと思われる。 また意見等が寄せられた時は真摯に受け止め、直ちに話し合いの場を設け、運営に反映させていくように務めている。		
			(外部評価) 家族会の会長の方を中心に会報が作られており、ご家族の方々に配布されている。又、大掃除等をご家族にも協力いただけるようお願いされる等、ケアのパートナーとして協力をいただいている。		ご家族の心情を踏まえて、希望や要望等を引き出せるような工夫を今後も、さらに重ねていかれることが期待される。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者会議、職員会議での意見交換、また必要に応じて理事等の役員を含めた合同会議を開催して現場の職員の声を汲み上げている。 また年度末毎に職員は“職員提言メモ”を運営者に提出。運営者は提言に対して回答、運営に反映させている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 入居者の状況・状態の変化に応じて必要な時間帯に職員を配置したり、勤務の調整をしたりと柔軟な対応をとっている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 入居者の事を第一に考えての職員配置をし、退職などで人が入れ替わる場合も引継ぎをしっかりと利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 (外部評価) 職員の異動で利用者への対応等が変わることのないように、書類等を用いた引継ぎにも力を入れておられる。又、日常的に法人内の事業所同士で行き来をされ、利用者と職員は顔なじみになれるよう取り組まれている。		新旧職員の交代がスムーズにできるよう、勤務の流れをプリントして渡し、実習期間はシフトをダブルキャストで勤務にあたっている。 さらに、職員の異動や離職のあったようなとき、ご家族の不安はないだろうか。さらに配慮できるような工夫を重ねていかれることが期待される。
5.人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修委員会を設け、計画的に行うことで充実を図っている。また、新人職員、中堅職員など段階に応じて研究発表の機会を作っている。 (外部評価) 法人内でケアについて等の研修会が行われている。職員は、外部研修にも積極的に参加され、研修受講後は、法人内で発表する機会が作られている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)		
			シンポジウムの開催での打ち合わせ、交流会でサービスの向上、社会福祉についての意見交換をさせていただいた。		年に一度はこのようなシンポジウムに参加したい。地域包括支援センターや松山市主催で地区単位のグループホームの意見交換会がもたれており、今後もこのような意見交換の場に参加していきたい。
			(外部評価)		
			シンポジウムや外部研修会で知り合った他事業所の方達と、法人の催し等で利用者とともに交流をされている。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価)		
			職員互助会があり、歓送迎会・忘年会等で親睦を図っている。 ストレスや悩みなどがある時はいつでも理事長、ホーム長に相談する体制がとれている。 理事長は管理者、職員にねぎらいの言葉をかけている。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価)		
			資格取得のための勉強会や懸賞論文の応募を奨励し、県内外の研修案内は掲示・回覧して参加希望者を募っている。希望者には参加できるよう事業所全体が協力している。		
<p>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価)		
			相談時等にきちんと面談を行い、積極的傾聴に努めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談時等にきちんと面談を行い、積極的傾聴に務めている。		
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時には本人・家族が適切な支援を受けられる為にあらゆる角度から総合的に判断し、その人に合ったサービスを提示するなどの対応をしている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 日中のみの利用、数日のお泊りを経て、馴染みを作ってから利用を開始していただいている。 (外部評価) 日中、事業所で他の利用者とともに過ごされたり、宿泊も試すことができるようになっており、ご本人が事業所の雰囲気にゆっくりと馴染んでいけるよう支援されている。又、利用前には、職員が利用者のご自宅を訪ね、関係作りをされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員は共に過ごす時間の中で喜怒哀楽に共感し、「共生」の考えのもと一緒に生活を営んでいる。 (外部評価) 職員は、介助を行う際に、利用者のご自分の力を最大限に出して下さることに、とても感動する場面があり、「ありがとう」と利用者気持ち伝えておられる。支える方も支えられる方も、笑顔になれることが大切だと考えておられる。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ともの家では“家族はケアパートナーである”と位置づけており、職員と家族の双方から本人を支援するようにしている。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) センター方式の導入によって、情報を得たものを整理し、本人への理解が深まっている。本人と家族のより良い関係の為に生かしている。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 入居されても、ふるさと訪問や電話、手紙の行き来など関係の維持に努めている。		
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 職員の橋渡しによって相互理解を深め、利用者同士の関わり合い、支え合いができるようなマッチングを続けている。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 利用が終了しても、本人・家族がふらっと立ち寄って下さる等、関係を断ち切らないようにしている。また、長期入院によって退去された方も居られ、お見舞いや訪問なども続けている。		ともの家だよりの送付、イベントの案内等も継続している。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)		
			ケアプラン作成時にはセンター方式を導入し、本人本位のプランを作成している。また、本人・家族に暮らし方の希望を聞き取りしている。		
			(外部評価)		
			利用者個々についてアセスメントを詳しく行い、新しい情報は、随時追加されている。積極的に表現できなくなった方も、ご家族のことや若いころのことをお話すると、笑顔がみられ、思いを知る手がかりとされている。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)		
			サービス利用時にセンター方式の情報シートを作成。生活歴から嗜好まで聞き取りによって把握し、ケアに活かしている。		
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価)		
			センター方式の導入によって一人ひとりの暮らし方を理解し、検討を行った上で残存能力を活かした一日の組み立てを行っている。 また一日の生活を記録に残し、情報の交換に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価)		
			ケアカンファレンスには本人・家族にも参加していただき、共に介護計画を作成している。		
			(外部評価)		
			ご本人やご家族と話し合い、介護計画を立てておられる。計画の実施状況も項目ごとにチェックされている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			ケアプランの実施期間は通常3ヶ月とし、特変がある時には関係者と話し合い、直ちにショートケアプランを作成、実施している。		
			(外部評価)		
			3ヶ月毎に介護計画を見直し、状態の急激な変化時には、ショートプランを作成されている。計画をご家族と共有し、リハビリの協力等も得ながら取り組まれている。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			個人記録にケアの実践・結果を記し、職員がその実践・結果の内容を共有する事で、統一された効果を得られるよう務めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			本人や家族の状況・要望に応じて、通院、外出の付き添い、ホームにて本人と家族と一緒に泊まって頂くなど、柔軟な支援を行っている。		
			(外部評価)		
			ご家族が対応できない場合の通院介助、ご家族と一緒になつかしいふるさとへの訪問、お墓参りや教会に礼拝に出かけること等も支援されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 必要に応じて関係機関、地域住民に協力をお願いしている。		
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他のサービス事業者意見交換、情報交換会を持ち、より良い支援、サービスの提供に努めている。本人の意向があり、必要であればデイサービス利用の支援をしている。		訪問看護や訪問歯科を活用している。
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 概ね2ヶ月に一度地域密着運営推進会議を開催し、地域包括支援センターの職員、家族の参加によって協力関係が築けており、情報の行き来がなされている。		
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。超高齢や重度の為、訪問看護を利用されている方もいる。 (外部評価) 希望のかかりつけ医に受診されているが、重度化した場合、ご家族とも相談しながら24時間対応可能な病院に代えることもある。		重度化に伴い、急変に備えて、24時間対応できる病院などに主治医を変更するなど、家族と相談し、検討中である。
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) かかりつけ医や非常勤看護師と相談し、認知症専門医への受診の助言を頂いた時には家族に連絡、受診をお勧めしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師が様子を見に来て、その場で助言・指導を貰っている。緊急時には24時間電話連絡にて対応できている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には医療機関と密な連携をとり、情報交換と相談に務めている。また家族も加わって情報共有ができている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 事業所は“看取りに関する指針”を打ち出しており、それに沿って家族や関係者と話し合いをしている最中である。 (外部評価) 利用者ご本人やご家族とも話し合い、ご家庭の事情等も踏まえて看取りに対応されている。		数人の入居者については方針が決まっている。職員はその方針を共有している。 今後、事業所では、さらに話し合いを重ねながら支援できるよう取り組みたいと考えておられた。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 入居者一人ひとりの現状を職員、主治医は把握しており、家族を交えた話し合いを行っている。今後の変化で生死に係わる方の緊急時対応マニュアルを作成しており、職員間で共有している。		
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 住み替えがある時はできるだけ詳しい情報を提供し、新しい環境に慣れるための情報交換に務めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>(自己評価) 職員採用時の研修にて“ ともの家の接遇態度 ”を教えている。職員はそれを固く守り、尊厳の保持に努めている。</p> <p>(外部評価) 事業所の催しで、利用者の写真を使用する場合は、利用者、ご家族に希望を聞き取り行われている。ブログの写真や文章もプライバシーの保護を守り、発信されている。</p>		
51		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>(自己評価) 日々の生活は自己決定、意思の尊重に基づき、インフォームドコンセントをきちんと行っている。説得ではなく納得をもって介護を行っている。</p>		
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>(自己評価) 生活にプログラムはなく、個々の生活習慣やそのときの希望に合わせた支援をしている。</p> <p>(外部評価) 起床や食事の時間を個々の体調やペースに合わせておられる。犬がお好きな方に対して職員は、テラスで犬と過ごす時間を大切に支援されていた。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 衣類は複数提示して選んでいただいている。化粧や髪型、スカーフを巻くなどおしゃれを楽しんでいただいている。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者の好みはリストを作成しており、食事作りは献立を相談して立てるところから参加して頂いている。盛り付け、配膳などその人持つ力を活かしながら行っている。		食事は原則一緒に食べることになっているが、重度化において介護に忙しく、一緒に食事をするのが難しくなっている。
			(外部評価) 職員は、食事の準備や片付けを利用者と一緒にされている。できるだけ口から食べることを続けていけるよう支援されており、職員が利用者の隣に座り、ゆっくりと介助しておられる様子がうかがえた。		重度化に伴って、職員は食事介助に徹しておられる様子がうかがえたが、利用者個々が、おいしい食事をさらに楽しめるよう、職員のかかわりについて工夫を重ねていかれほしい。
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) ティータイムやおやつ時は飲みたいものを伺って提供している。以前はお酒を購入し、楽しめる方もいらしかったが、ご本人も体調面を考慮し、行事などの際にと自制しておられる。		ティータイムやおやつ時などには提供できるものをメニュー表にして選んでいただきたいと思っている。
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 個々の排泄パターンや感覚を把握している。またサインを見逃さないようにし、随時誘導をしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価)		
			入浴は希望に沿っていただいている。また、せかされずゆっくり入浴できるように心掛けている。		
			(外部評価)		
			一人で入浴することを希望される方には、さりげなく職員が見守り、ご本人が手伝ってほしいような時には、ブザーで知らせることができるようになっていいる。介護度が重度の方も職員二人介助で皆と同じように、湯船でリラックスできるよう支援されている。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
			個々の体調に合わせて、日中の臥床も取り入れている。冷え性の方には湯たんぽを置いたり、眠れない方にはホットミルクやココアなどのナイトミールをお出ししている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価)		
			その方が楽しく行える役割を探し、一緒にできるように働きかけ、張り合いを持ってできるようにしている。感謝の言葉を伝える事によって喜びや必要とされていることを感じ取って頂く様に務めている。買い物や散歩の気晴らしも重視し、積極的に支援している。		
			(外部評価)		
			台所仕事をされる方やタオルをたたむ方等、利用者個々に役割があり、ご本人のできることを無理なく行えるよう支援されている。又、介護度重度の方は、その場に一緒に居て見守ってくださっている。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)		
			ご自分で管理が出来ない方でも買い物時は職員の関わりを用いて、自分で支払いをしていただいている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			<p>天気の良い日は散歩に出掛けたり、デッキや玄関先に出るなど外気に触れられるよう積極的に支援している。</p>		
			(外部評価)		
			<p>天気のよい日は、車椅子を利用されている方もともに散歩や買い物に出かけておられる。又、近所のお店に出かけられたり、高台から眺められる町の風景を見に出かけられることもある。蛙の声・蛍・わらび採り等、季節を楽しむ機会も作っておられる。</p>		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			<p>本人の希望により、職員と家族一緒にふるさと訪問を実施したり、外食や買い物、ドライブ、墓参りなど支援を続けている。</p>		
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			<p>電話、手紙、葉書を用いて家族・友人・知人との交流を支援し、社会性の維持・回復に努めている。</p>		
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			<p>訪問時間の制限を設けておらず、いつでも来訪していただいている。来訪時にはゆっくり落ち着いて過ごしていただけるよう、務めている。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員は身体拘束は虐待であるとの認識を持って、拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室や玄関は施錠することなく、自由に出入りすることが出来るようにしている。 (外部評価) 昼間は鍵をかけず、時に玄関のセンサーを使用する場合もある。気ままたち出される方には、職員と一緒に出かけるようにされている。		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は職員それぞれが全員の所在を把握するように努めており、行方不明などの事故の起こらないようにしている。 夜間も起こさないよう静かに巡回し、様子の把握をしている。		
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人ひとりの力を見極めてご自分で管理していただいたり、預らせていただいたりしている。		
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 過去の事故報告の分析と先読みの介護、危険予知を心掛けている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防署の指導の下、防災・救命処置の訓練を行っている。 研修会でも緊急時対応について学び、マニュアルも作成している。		
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年に2回消防署の指導を受け、避難訓練などを実施し、防災設備の充実も随時検討している。地域の方にも協力を得られるようお願いしている。 (外部評価) いざという時には、大きな声で助けを呼ぶことで近所の方が駆けつけてくれることとなっている。避難訓練時には、避難にかかる時間を計られており、連絡方法について等、訓練を行い気付かれた点もあった。		さらに、今後、地区の防災訓練に利用者とともに参加することを予定されている。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) ご家族の来訪時には記録を見ていただきながら、起こりうるリスクをきちんと説明し、相談・防止検討を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 職員は一人ひとりの体調の変化を読み取り、すぐに情報の共有をしている。 看護師にも連絡してその都度診ていただいている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は一人ひとりの疾病と処方薬の内容、薬の効果や副作用、用法・用量についても医療情報で確認し、理解している。 服薬の支援と症状の変化も読み取れるように観察を怠らないようにしている。		
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝冷たい牛乳を飲んだり、水分摂取や運動にも気を配っている。朝食後のトイレ誘導やマッサージなども行い、自然排便できるよう心掛けている。		
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行っている。個々の能力に応じ、声かけ、保清介護、食物残渣のないようお茶を飲んでいただくなど、支援方法を変えている。 歯科医に個々の口腔ケアについてアドバイスを頂いている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事が十分に摂取できない方はチェック表を用いながら栄養補助食品で補って、水分もこまめに摂っていたけよう随時提供している。 管理栄養士の指導も受け、バランスの取れた献立にも配慮している。		
			(外部評価) 食事があまり進まないような方には、献立表の食事内容に沿ってチェックし、「何が食べられるのか。どう調理すれば食べられるか。」を職員で話し合われている。利用者個々の状態に応じて調理がなされ、時に医師とも相談され、必要な栄養が摂れているか確認をされている。		
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 手指消毒や個別タオルの用意をしている。職員も手洗いにはペーパータオルを使用している。 一介護一手洗いを励行し、感染症の予防に努めている。 感染症についても研修会を持って知識を深めており、マニュアルも作成している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 定期的な冷蔵庫内の清掃と庫内点検を行っている。また安全性の高い有機野菜の利用や食品産地にも気を配っている。 台所や調理器具も塩素消毒、日光消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ホームの周囲に高い塀や門はなく、威圧感のないようにしており、玄関周りにも花を植え、親しみやすく気楽に出入りできるようにしている。		
81	29	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには季節の花が飾られ、テレビはほとんど点けず、小さな音量で音楽を流している。照明も調節し、自然の光を取り入れている。職員も大きな声で話さなよう気をつけ、足音にも注意している。 (外部評価) 季節の花がテーブルを飾り、静かな雰囲気が保たれている。テレビは希望の番組だけつけるようにされており、職員の声も大きくならないように注意されている。		事務室を作り、リビングが雑然としなくなった。
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 入居者がリビングに集まる事が多く、構造上共用空間で独りになれることは難しい。職員は独りになりたいと感じてらっしゃる方のサインを察知し、デッキや居室を上手く使って対応している。		2Fのスペースを上手く活用する事を検討している。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			昔から使われている家具や仏壇、なじみの道具を持ち込み、自宅での環境に近い居心地の良さを工夫している。		各居室にあったパッド類も倉庫に収納している。
			(外部評価)		
			居室には、段差のない畳が敷いてあり、ベッドや布団は一人ひとりの身体機能に合わせて選んでおられる。馴染みの家具や仏壇等を置かれ、お若いころの写真を見やすいように大きく引き伸ばして飾られていた。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			こまめに空気の入れ替えをし、よどみがないように務めている。外気温との差が大きくならないように務めている。入居者の状況にも配慮している。		臭気のある所は消臭剤を置いたり、換気をして対応している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			廊下やトイレには手すりを設置し、玄関にも腰掛け用に椅子を設置してある。共用スペースをすっきりさせ、安全に努めている。		
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			風呂場には“ゆ”と書いてある暖簾を掲げ、トイレも“便所”と大きく表記してわかりやすいようにしている。		
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			天気の良い日はいつでもデッキで日光浴を楽しむことが出来、季節の花や野菜の成長を楽しめる。畑仕事の為に周辺を手入れして、いつでも世話が出来るようにしている。		ベランダと2Fスペースをもっと有効に活用していきたい。

自己評価及び外部評価票

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者の思いや願いを把握し、一人ひとりに対し全職員がその都度適切な対応・支援を行っている。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	ティータイムやおやつの時などテーブル、コタツを囲む時間があり、ゆったりと一緒に過ごす場面が毎日ある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	重度の方や高齢の方の生活リズムに対応し、一人ひとりの生活スタイルを尊重し、支援できている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人ひとりの楽しみを探り、より笑顔を引き出すよう務めており、個別支援・対応に心掛けている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	散歩や買い物に出られる事が多くあり、車椅子を使用される方も職員と外出するなど、外気に触れる機会をとっている。 家族からの情報により教会、ふるさと訪問にも出掛けている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	定期往診・受診や配薬から健康が保たれ、歯科往診も受けることが出来ている。 見守りや、職員同士の声掛けにより、安全に配慮している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者の身体状況に応じて居室の様式替えやより生活しやすくなるよう対応している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族の協力のもと、面会も多く、電話や手紙を通して声を聴く機会も多い。信頼関係は出来ていると感じる。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	生け花には他の事業所の入居者やスタッフが参加され、元職員、元入居者家族も訪ねて下さる。

自己評価及び外部評価票

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (自己評価) ② 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない	アンジュールともの家で開かれるバザー・ロビー展も1周年を迎え、地域の方にも広まり、楽しみに待って下さる方もいらっしゃる。地域の方も理解してくださると共に、応援者も少しずつ増えてきている。
98	職員は、生き生きと働いている (自己評価) ① 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者から教えられることが多々あり、一緒に生活を営む中で役立て、助けられる場面も多い。一日一日入居者と共に支え合い、自然と笑顔が出るほど生き生きと働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う (自己評価) ② 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自立している方の思いや要望に応え、出来る限り支援しているが、重度の方の支援は職員や家族の思いからなるところもあり、満足していただけるよう務めているが、分からない部分がある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う (自己評価) ① 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族の意見を取り入れたケアプランの作成と、来訪時にありのままの生活を見ていただいている。職員、家族が一丸となり、一人ひとりを支援している。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

重度の方々にも心地よい刺激となるよう、出来るだけ戸外に出て外気に触れる機会を設けている。
言葉でのコミュニケーションが難しくなる中、タッチング、マッサージを通して様々な表情を見せて頂けるよう支援させていただいている。
職員と家族が一丸となり、より良いケアを行えるよう意見を出し合っている。
サービス向上の為に職員は研修会などで日々学習している。
家族の会が昨年度発足し、家族同士の繋がりも強くなった。ともの家の行事など、入居者の方々、職員と共に参加され、入居者、家族、職員の絆が強くなってきている。